

H27年度の不祥事防止ゼロプログラム検証結果について

番号	取組課題	重点目標	行動計画	検証結果
1	交通事故防止 酒酔い・酒気帯び運転防止	・法令の遵守及び安全運転の実施 ・酒酔い・酒気帯び運転を未然に防止する	交通事故事案や飲酒運転事案の情報を共有し、不祥事を起こさない職場環境を進める。	12月の部門検討のテーマにした。「飲酒運転などの事例」を資料とした。季節柄、「酒酔い・飲酒運転」の予防意識につながった。
2	私費会計	私費会計事故を未然に防止するとともに、適正な会計処理を行う	学年費の小口現金システムの周知と保管管理の徹底する。	4月早々に私費会計に携わる教員対象に私費取扱説明会を実施した。特に小口現金制度導入に伴い、会計担当者に小口現金制度の周知を行い適正処理を図った。
			適正執行に徹するとともに、私費会ファイルのダブルチェックを行う。(ポイントカード使用禁止、立替限度額の厳守など)	私費会計ファイルのダブルチェックは徹底した。ポイントカード使用禁止、立替限度額の厳守など適正執行ができた。
3	体罰・不適切指導	人権尊重を進める	良好な人間関係を築きお互いの人権を大切にするための基本的な姿勢として「あいさつ」や「さん付け呼称」の大切さを啓発し、職員一人ひとりが率先して「あいさつ運動」「さん付け呼称」を定着する。	「さん付け呼称」については、職員アンケートでも昨年度より10ポイントマイナス評価が下がり意識の広がりが見られて、まだ、うっかり「ちゃん付け」になることも見られ、今後も「あいさつ運動」「さん付け呼称」を呼びかけていく。
			全教育活動において、児童・生徒を蔑むような言動を慎み、常に児童・生徒の規範となるように、お互いを認め合い人を思いやるような言動に心がけることで、いじめ撲滅への教育環境づくりを推進する。	職員振り返りアンケートでは、「児童生徒の心を傷つけるような言動への気配り」の項目では、マイナスチェックをする職員は一人もなく、教職員全員児童生徒の心情を大切にしたい言動に心がけていた。
			担任間同士で心にかかることを互いに口に出し、感情に流されない指導ができる職場環境づくりを進める。	チームティーチングで指導にあたり意識の向上は見られたが、冷静に欠いた指導になったと振り返る教職員が若干いた。
4	ハラスメント行為	セクハラやいじめなど人権侵害行為を未然に防止する。	人権感覚を磨き、セクハラ・パワハラに関する意識を高め、お互い気持ちよく働けるような職場環境づくりを進める。	児童・生徒および教職員対象の相談窓口を設置するなど防止に向けた環境を整えた。相談ケースはなく、セクハラ・パワハラの抑止力となっている。
			少人数による研修会を開き、不快に感じる「言葉掛け」を出し合い具体的にセクハラ・パワハラを意識する機会とする。	7月に部門検討会を実施した。「セクハラ・わいせつ事案」や「セクハラ・セルフチェックシート」の資料をもとに、セクハラが起きる環境や起こさない環境について話し合い意識を高めた。
			「いじめ」防止に関する研修会を開催し、早期発見・早期対応に向けて啓発活動や相談体制の充実を図る。	6月に生徒間でのSNSを介した「いじめ事案」を通して「いじめ防止研修会」を開いた。携帯電話の危険性を再認識し、児童生徒へのいじめ予防に向けた取組みの必要性について共通理解がなされた。
5	個人情報保護	個人情報の流出を未然に防止する。	携帯電話のメールやSNSによるトラブルや個人情報流出について情報提供して、トラブル防止に向け意識向上を図る。	「いじめ事案」を通して改めて「携帯電話安全教室」の大切さが共通認識ができた。また、「個人情報紛失・漏洩」をテーマに10月に部門検討会を開き、校外行事に持っていきしおり等の取り扱いなど検討した。
			個人情報整備月間を設定し、紙媒体の資料や電子情報の保管場所の見直しや不要な情報を廃棄するなど点検し、保管環境を整備する。	8月と3月を個人情報整備月間として設定し、保存してあった文書や電子情報等を廃棄(消去)処分する意識が定着してきた。
6	公務外非行防止 (傷害、暴行、横領、窃盗、詐欺、恐喝、麻薬・覚せい剤など、器物破損)	公務外非行を未然に防止する。	公務員の非行事例の情報を共有し、不祥事を起こさない職場環境を進める。	朝の職員打合せで報道事例を通して、意識啓発を図った。
			外部講師を招き「危険ドラッグ」に関する研修会を開き、危険ドラッグの身体や健康に及ぼす害や使用する心理を知り、危険ドラッグに手を出さないよう意識啓発をする。	11月に、秦野警察の方から「薬物・危険ドラッグ」に関する不祥事防止全体研修会を開き、DVD視聴を交え「薬物や危険ドラッグ」の身体におよぶ悪害や巻き起こす事件・事故などを通して、本人だけでなく家族をも巻き込み人生を破綻させる恐ろしい薬物であることを実感として学ぶ機会となった。
7	風通しの良い働きやすい職場作り (気かけ、声かけ、明るい職場作り)	職場環境の見直しを検討し、不祥事を起こさない職場環境を作る。	5S+1A(清潔、整理、整頓、清掃、スマイルと挨拶)を心がけ明るい職場環境を作る。	文化祭前に職員作業日を設定し、きれいな環境をつくり気持ちよく来校者を迎えた。「あいさつ」の励行を呼びかけ、明るい職場作りにつながった。
			服務に関わる不祥事についての情報提供と研修を通し、法令遵守への姿勢と適正な服務への意識を高める。	4月に初任者や転任者対象の服務に関する研修会を開いた。また、1月には日常点検チェックポイントの振り返りで服務に関する話題を取り上げ、法令遵守への姿勢と適正な服務への意識向上につなげた。
			お互い充分なコミュニケーションを図り、一人に業務が集中しない、悩まない、ストレスを貯めない職場環境作りを進める。	業務の見直しアンケートなど教職員の声を聞き大切にする姿勢は根付いてきた。書式の見直しなど業務改善に活かした。より一層コミュニケーションができる職場環境作りを推進していきたい。
8	児童生徒に係わる学校事故防止	ヒヤリハット情報を共有し、事故や不適切な指導を未然に防ぐ。	ヒヤリハット、校内事故の情報は、朝の打合せで報告しあい注意を喚起する。	校内事故に関してはヒヤリハットや対応のまずさなど部門会や朝の打合せで報告しあい状況を共有し、注意喚起し未然に防ぐ手立てなどを確認した。
			ケース会を通して、担任間や関係部署と共通認識に立った支援体制を充実する。	9月に「学校事故防止」をテーマに部門検討会を開き、実際本校で起こったヒヤリハットをまとめた資料を通して、振り返りと現状を話し合いながら未然防止のための基本的な留意事項などを再確認した。
			危険要因の情報を共有し、事故を防ぐため安全で迅速な対策・対応を図り事故を未然に防ぐ職場環境作りを進める。	